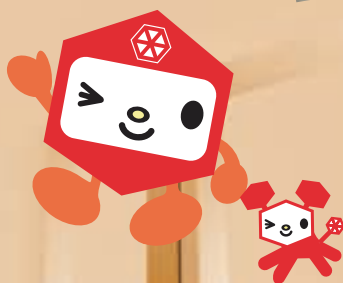


# フジ・メディア・ホールディングス

株主の皆様へ

第68期 中間報告書 平成20年4月1日から平成20年9月30日まで

レポート



ごあいさつ

# Top Message



代表取締役会長  
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長  
(President & COO)

豊田 皓

## フジテレビからフジ・メディア・ホールディングスへ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、平成20年10月1日をもって放送法に定める認定放送持株会社に移行するとともに、社名を「株式会社フジ・メディア・ホールディングス」に変更して新たなスタートを切りました。また、認定放送持株会社移行前の株式会社フジテレビジョンが営んでおりました放送事業等の主要事業は、同時に新設分割により設立した「株式会社フジテレビジョン」に承継しております。

今後は株式会社フジ・メディア・ホールディングスが認定放送持株会社として上場を維持し、傘下の6グループ19社の中核子会社をはじめとするグループ経営を主たる業務として、国内外から高く評価される「我が国を代表する

メディア・コングロマリットを目指す」という長期的なグループ経営ビジョンの実現を図ってまいります。現在、放送をはじめとするメディア産業を取り巻く環境は大変厳しい局面にあり、まさに大きな変革期を迎えようとしております。当社といたしましては、この機会をメディアグループとしての「第二の創業期」として捉え、あらゆる事業環境の変化にも即応し、持続的かつ安定的な成長を遂げるべく、「グループ経営の強化」、「経営資源の選択と集中」、「事業再編への積極的取組み」に力を注ぎ、グループ企業価値の向上をはかり、株主の皆様のご期待に答えるべく努めてまいります所存です。

何卒、これからも当社グループに対して倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

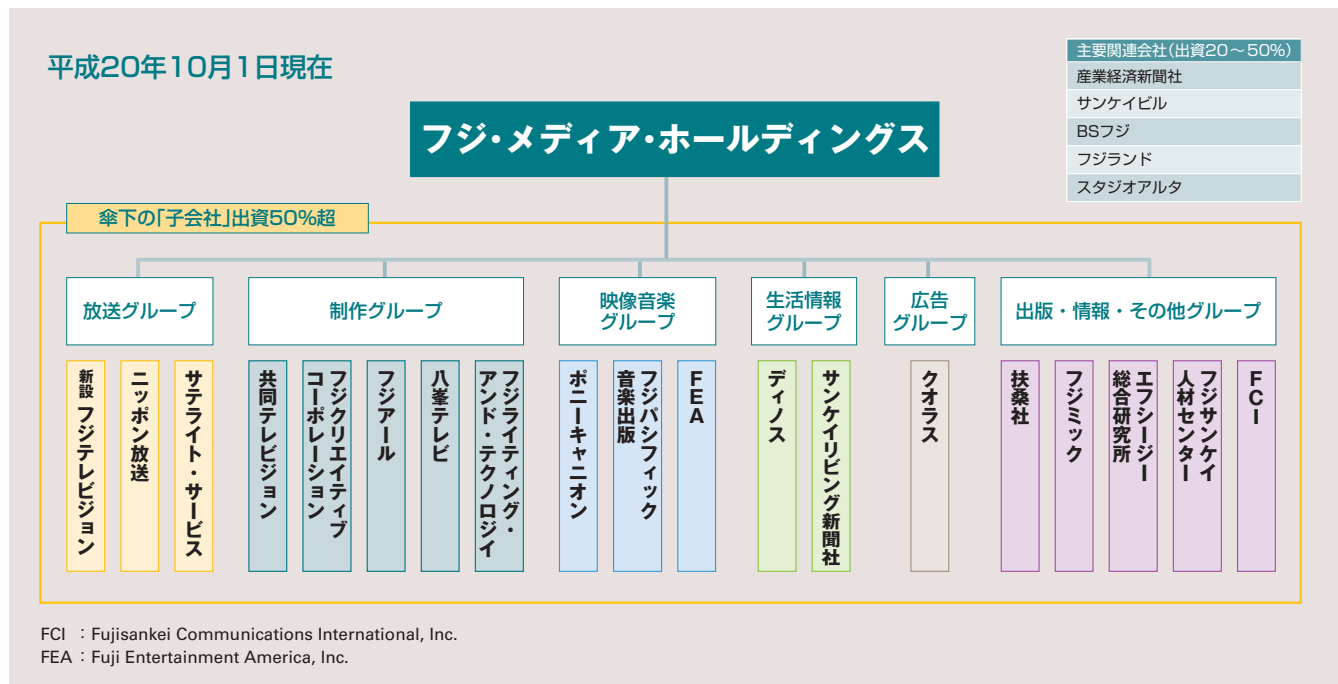
### Contents

Top Message ・ 1  
Top Interview ・ 5  
CSR通信 Vol.4 ・ 8

FUJI MEDIA HOLDINGS OUTLINE ・ 9  
連結財務諸表 ・ 13  
個別財務諸表 ・ 15

会社概況 ・ 16  
株式情報 ・ 17  
株主メモ ・ 18

□グループ組織概略図



「株式会社フジテレビジョン」は平成20年10月1日をもって、認定放送持株会社に移行し、「株式会社フジ・メディア・ホールディングス」（英文表記・FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.）へ商号変更いたしました。

また、新設分割によって当社の完全子会社として「株式会社フジテレビジョン」を発足させ、同社にグループ経営管理事業を除く一切の事業を承継しています。

- (注1) サテライト・サービスは実質支配力基準に基づく非連結子会社です。  
 (注2) グループ組織概略図における各子会社グループは、平成20年10月1日以降の有価証券報告書等における事業の種類別セグメントでは、それぞれ以下の通り表記します。

グループ表記	セグメント表記
放送グループ	⇒ 放送事業
制作グループ	⇒ 制作事業
映像音楽グループ	⇒ 映像音楽事業
生活情報グループ	⇒ 生活情報事業
広告グループ	⇒ 広告事業
出版・情報・その他グループ	⇒ その他事業

## グループの事業内容について

認定放送持株会社フジ・メディア・ホールディングスは、6グループ19社の中核子会社で構成されています。また、フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめフジサンケイグループ各社と事業・文化活動において更に連携を強めていきます。

### 放送グループ

主な構成子会社：(株)フジテレビジョン、(株)ニッポン放送、(株)サテライト・サービス

放送グループはフジ・メディア・ホールディングス・グループの基幹事業である地上波および衛星波によるテレビ放送事業、ラジオ放送事業を行っており、報道・情報、ドラマ、バラエティ、スポーツなどの放送番組を通じ、国民・視聴者・聴取者の皆様に情報と娯楽を提供しています。(株)フジテレビジョンは当社グループの中核として、我が国最強の「デジタルコンテンツファクトリー」を標榜し、テレビ放送事業に加え、映画事業、イベント事業、インターネットやモバイルでのデジタルコンテンツ事業、ビデオ・DVD販売やゲームの企画開発、番組関連商品の開発・販売等コンテンツに関するライツビジネスなどを手がけています。放送グループは、自らが創造する様々なコンテンツによって、当社グループのメディア・コンテンツビジネスを牽引する役割を担っています。



「松本ひでおの  
ショウアップナイターGO!GO!」



フジテレビ開局50周年記念ドラマ  
「風のガーデン」

### 制作グループ

主な構成子会社：(株)共同テレビジョン、(株)フジクリエイティブコーポレーション、(株)フジアル、(株)八峯テレビ、(株)フジライティング・アンド・テクノロジーなど。

制作グループは、放送番組を中心とするコンテンツの制作に関連した各分野のスペシャリストたちが結集したクリエイティブ企業集団です。ドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーからスポーツ・報道中継に至るまで様々なジャンルのテレビ番組と映画などの映像コンテンツやイベントの企画制作・販売を担う会社、放送、映画、演劇の美術・装



「セレブと貧乏太郎」

飾や照明、制作技術ならびにその企画制作・販売を担う会社、さらにはデジタル放送対応などの高度な放送技術やビデオ編集・MAなどのポストプロダクション機能を担う会社などで構成され番組やイベントを彩る重要な機能を果たしています。

### 映像音楽グループ

主な構成子会社：(株)ポニーキャニオン、(株)フジバシフィック音楽出版、Fuji Entertainment America, Inc. など。

映像音楽グループは、国内外の映像・音楽全般に関して、楽曲の企画、開発、制作プロデュース、権利ビジネスそして製品の販売までを行っています。映像については、オリジナル映画作品の企画、開発そして映画製作への出資、フジテレビの番組・映画をはじめとする国内外の映画・ドラマのビデオDVDの制作・販売などを手掛けています。音楽については、邦楽や洋楽を問わず、また韓流や落語など、幅広いジャンル対象に、アーティスト・作詞家・作曲家の育成から作品の開発・プロデュース、原盤制作、着うた等のデジタルコンテンツ制作、さらに国内外の数多くの楽曲の著作権管理を行う音楽出版事業を手掛け、日本の音楽ビジネスを牽引しています。

## 生活情報グループ

主な構成子会社：(株)ディノス、(株)サンケイリビング新聞社など。

生活情報グループは、通信販売事業やコミュニティーペーパーによる情報提供サービス事業を担っています。(株)ディノスの通信販売事業は、商品開発からその商品の品質管理までを行い、カタログ・テレビ・インターネットといったメディア媒体を通じて商品の紹介、受注、配送そしてアフターサービスまでの一貫した業務を手掛けています。テレビ通販は、日本で初めてテレビショッピングをスタートさせて以来、独自のノウハウとアイデアを盛り込み魅力のある商品を提供しております。(株)サンケイリビング新聞社が発行するコミュニティーペーパーは、全国の主要都市圏で、地域密着型の宅配フリーペーパーを展開しています。常に主婦や働く女性の声を取り入れ、暮らしに役立つ生活情報を発信し、また読者の声を反映する双方向のコミュニケーションを実現するなど、広告主とのマーケティング展開を有機的に結合したビジネスを推進しております。



「ルール」「カーラ」「ダーマ」



羞恥心のデビュー・シングル「羞恥心」

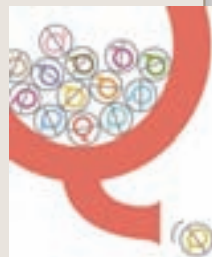


ヘキサゴンオールスターズ  
「WE LOVE♡ヘキサゴン」

## 広告グループ

主な構成子会社：(株)クオラス など。

(株)クオラスは平成19年10月、(株)富士アドシステム、(株)ビッグショット、(株)フジサンケイアドワーク、(株)ティークムコーポレーションの広告会社4社を統合して誕生しました。合併前のそれぞれの会社の得意分野であった金融、エンタテインメント、コンテンツ事業、イベント事業の強みを生かし、「新たなコミュニケーション・ビジネスの創造」を掲げ、お客様のニーズに真正面から取り組み、マーケティング、クリエイティブ、メディアを超えたトータルなコミュニケーションデザインを提案し、新たな感動を創造できる「情報ビジネス・イノベーター」を目指すとともに、実効性のあるソリューションをお客様に提供してまいります。



「Quaras Imagination」

## 出版・情報・その他グループ

主な構成子会社：(株)扶桑社、(株)フジミック、(株)エフシージー総合研究所、(株)フジサンケイ人材センター、FujiSankei Communications International, Inc. など。

出版・情報・その他グループは、テレビ番組との連動企画などをはじめとして、数々の話題を作り上げてきた雑誌・書籍を発刊する出版事業、コンピュータ・ソフトウェアの開発を軸としたシステムインテグレーションやネットワーク構築などを担うIT関連事業、美容・日用品の商品テストなど暮らしに関わるユニークな調査・研究を中心とした情報サービスを担う事業、そのほか人材派遣業や当社グループの海外における事業展開を図るなど、幅広くビジネスの据野を広げています。



「赤めだか」



# Top Interview

トップが語るフジ・メディア・ホールディングス

代表取締役社長 豊田 皓

## 上期の業況についてご説明ください。

当上期は、米国の金融不安に端を発した金融市場の混乱や原油をはじめとする原材料の高騰等により景気の先行き不透明感が一層強まるなか、企業の広告出稿マインドは後退し、広告市況は依然として低調に推移しました。

このように逆風とも言える厳しい事業環境のなか、当社グループは、前期に引き続き、コンテンツ制作力とグループ内事業の連動強化、並びに費用コントロールを徹底的に推し進め、収益確保に努めてまいりました。その結果、連結営業利益、連結経常利益の大幅な増益を果たすことができました。

当上期の連結売上高は、広告市況の低迷等を受けて放送事業等が減収となりましたが、映像音楽事業と連結子会社が増加したその他事業が増収となり、前年同期比0.1%増収の2,819億75百万円となりました。営業利益につきましては、放送事業、映像音楽事業が大幅に増益となり、通信販売事業でも営業損失を大きく圧縮したことで、前年同期比71.3%増益の126億41百万円となりました。また、経常利益は、前年同期比72.4%増益の154億12百万円となりました。当第2四半期(累計)の四半期純利益は、前年同期に投資有価証

券売却益等が特別利益に計上されたため、前年同期比45.9%減益の56億57百万円となりました。

## 各事業セグメント別の業況はいかがでしたか？

放送事業では、(株)フジテレビジョン単体において、広告市況の低迷による放送収入の減収とその他事業の減収により売上高は減収となりましたが、番組制作費、一般管理費をはじめとする費用の圧縮とその他事業の収支改善により営業費用が大幅に減少し、営業利益は増益となりました。

放送関連事業では、各社とも厳しい受注環境のなかで売上の拡大に努めましたが、イベント関連受注が減少したこと等により減収減益となりました。

通信販売事業の(株)ディノスは、カタログ通販部門でファッション系カタログの売上が好調でしたが、テレビ通販部門と、不採算催事の見直しを行った催事事業の減収により、売上高は減収となりました。しかしながら、前期から取り組んでおりました原価率の改善並びに通販経費、一般管理費の削減に努めた結果、前年同期比で大幅に損失が減少しました。

映像音楽事業の(株)ポニーキャニオンは、音楽部門ではaiko

のアルバムや番組からデビューした「羞恥心」のCDが大ヒットし、また広告宣伝費等の圧縮により増収大幅増益となりました。また、㈱フジパシフィック音楽出版でも著作権部門、原盤部門ともに邦楽を中心に好調で増収増益となりました。

その他事業は、新たに連結子会社となった㈱サンケイリビング新聞社と㈱リビングプロシードの業績が加わり、売上高は増収となりましたが、出版事業の㈱扶桑社と広告事業の㈱クオラスがそれぞれ業界全体の環境悪化のなかで苦戦を強いられ営業損失を計上し、その他事業の営業損益は5億49百万円の損失となりました。

前期より、グループ内各事業の連動強化を図りながら、個社別に商品開発・調達力の強化、販売力の強化、費用コントロールの徹底について、具体的施策の実行に着手しております。当上期においては、主要子会社である㈱ディノス、㈱ポニーキャニオンについて収益面での実効が現れ、連結業績の向上に大いに貢献しました。

## フジテレビ単体の業況をご説明ください。

収入面につきましては、放送収入のうちネットタイムセールスは「北京オリンピック」等により増収でしたが、スポット

セールスは厳しい広告市況を反映して前期を下回り、放送収入全体は前年同期比5.1%減収の1,368億96百万円でした。その他事業はイベント事業が前期の反動で減収となったほか、映画事業、ビデオ販売事業も減収となり、前年同期比28.7%減収の234億89百万円となりました。

一方、費用面では番組制作費を大幅に削減したことで放送事業原価が減少し、その他事業原価も、「お台場冒険王ファイナル」での費用効率の大幅改善等により減少しました。また一般管理費等について費用コントロールを徹底し収益の確保に努めました。その結果、当上期では、フジテレビ単体は、売上高は1,761億57百万円と前年同期比8.4%の減収でしたが、営業利益は103億28百万円、経常利益は146億82百万円を計上し、前年同期比で営業利益38.4%、経常利益59.6%の大幅増益となりました。

このような状況のなか、番組コンテンツの質の維持・向上に努め、フジテレビは、当上期において番組視聴率民放トップを堅持し、4年連続の上期「四冠王」を達成することができました。なお、昨年9月にオープンした「湾岸スタジオ」は現在フル稼働を続けており、ドラマ・バラエティ番組制作における創造性と作業効率の向上に効果を挙げ、番組コンテンツの質の向上と制作費の削減に大きく貢献しております。

	売上高			営業利益又は営業損失(△)		
	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減(%)	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減(%)
放送事業	204,208	187,294	△ 8.3	7,972	10,659	33.7
放送関連事業	27,302	25,654	△ 6.0	1,555	1,485	△ 4.5
通信販売事業	29,967	29,139	△ 2.8	△ 1,999	△ 286	—
映像音楽事業	32,732	34,613	5.7	101	1,369	—
その他事業	25,422	39,579	55.7	△ 220	△ 549	—
消去又は全社	(37,935)	(34,306)	—	(29)	(36)	—
合計	281,697	281,975	0.1	7,381	12,641	71.3

## 今期(2009年3月期)の業績見通しについて ご説明ください。

当上期業績が示す通り、当社グループは、費用コントロールという点では、徐々に、かつ着実に筋肉質な企業体質に変わってきていると実感しています。しかしながら、下期の事業環境も決して楽観視できないなか、通期連結営業利益・経常利益の増益予想を達成するためには、費用の削減だけでは決して十分ではないと考えます。下期以降は基礎体力を強化した上で、それぞれの会社における主力事業の強化とグループ内各事業の連動による収益の拡大を積極的に図ってまいります。

今期の連結業績予想は本年5月時点での数値を11月6日に修正し、売上高5,711億円、営業利益244億円、経常利益287億円、当期純利益132億円を見込んでおります。

昨今の経済環境の悪化、広告市況の低迷によりフジテレビの放送収入については厳しい状況が続くと想定しております。また、景気後退により各事業の事業環境も厳しさを増すと思われる、連結売上高は前期を割り込むものと見込んでおります。しかしながら、収益面については、当上期業績にも反映された費用コントロール効果が通期で現れるため、連結営業利益・連結経常利益の増益を見込んでおります。

なお、フジテレビ単体としては通期売上高3,497億円、通期営業利益201億円を見込んでおります。

注：このフジテレビ単体の業績見通しは認定放送持株会社体制への移行を考慮せず、移行前の組織を前提としたものです。

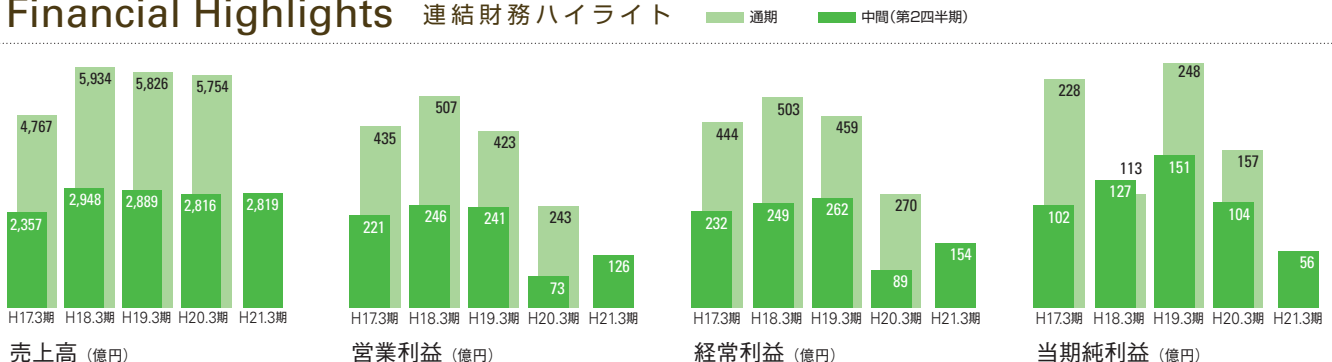
## フジ・メディア・ホールディングス体制に移行して、 今後、どのような点に注力していくのですか。

放送をはじめとするメディア産業を取り巻く環境は、デジタル化に伴う技術革新、規制緩和、法制度の改正等により大きな変革期を迎えております。

当社は、主業のテレビ放送事業については、放送業界トップの地位を確立し、また、放送周辺の事業についても他社に先んじて積極的な展開に取り組み、グループの事業領域の拡大に努めてまいりました。

今回の認定放送持株会社への移行による新たなグループ経営体制のもと、グループ経営資源の更なる選択と集中を推し進め、外部との資本・業務提携や事業再編に積極的に取り組み、既存事業分野の強化及び新規事業領域への展開も機動的に実行し、環境変化に対応し持続的な成長を可能にする事業基盤の構築を図ってまいります。

## Financial Highlights 連結財務ハイライト





# CSR通信

Corporate Social Responsibility Report

## Vol.4

### まじめ、はじめました。

フジ・メディア・ホールディングスではCSRを、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者、株主、投資家、取引先等をはじめとする皆様の支持をいただき、当社およびグループ各社の持続的な成長を確保するための活動と位置づけています。

#### ●環境活動

地球規模で起きている環境問題をグループ企業の事業活動の中で伝え、皆様とともに考え、行動することの重要性を共有することが第一の任務と認識しています。そのため、グループ各社の事業活動における省エネのほか、＜地球温暖化の現状＞＜家庭から始める省エネ＞＜省資源の推進＞や＜新しい環境技術の開発＞などについての啓発活動を行いました。

フジテレビCSR推進室では環境問題啓発活動の一環として、イベント「お台場冒険王ファイナル」会場で、8月8日、先着5,000名にエコポーチを無料配布しました。このエコポーチは、短期間で成長し、その過程で通常の植物の5-6倍もの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収するバングラディッシュのジュート(麻の一種)を素材にして作られており、途上国の人々の貧困をなくすためのフェアトレード運動にもつながっている製品です。



#### ●社会貢献活動

フジ・メディア・ホールディングスは、メディア・グループとして社会への貢献を常に意識し、その特質を生かした災害情報提供や芸術・文化活動をはじめ、様々な分野での社会貢献活動を推進していきます。

フジテレビCSR推進室とフジテレビの人気情報番組「めざましテレビ」、並びにフジテレビアナウンス室が協同して、「めざましムービー無料上映会&こども達のための朗読会」を日本各地で展開しています。今年度上期は、高度医療専門病院の＜千葉県こども病院＞や＜甲斐市竜王北部公民館ホール＞＜豊川市立長沢小学校体育館＞で実施しました。2007年からスタートしたこのプロジェクトは、全国の子供たちを対象にした社会貢献活動の一環として、今後も継続していく予定です。



# FUJI MEDIA

㈱フジテレビジョンは、平成20年度上期も引き続き、高い視聴率を維持することができました。ゴールデン(19時~22時)、プライム(19時~23時)、全日(6時~24時)、ノンプライム(6時~19時および23時~24時)の時間帯で、いずれも関東地区において民放テレビ局でトップの視聴率を獲得し、4年連続上期「四冠王」となりました。

## TV Program テレビ番組

### Sports スポーツ

北京オリンピックイヤーで大いに盛り上がったスポーツ界において「全日本選抜柔道体重別選手権大会」や「北京五輪バレーボール世界最終予選」などオリンピックを巡る

いくつもの感動のドラマを伝えてきました。中でもバレーボールの五輪最終予選では女子、男子ともに全日本がオリンピックの切符をつかむ瞬間を放送、女子の韓国戦は19.5%、16年ぶりの出場を決めた男子のアルゼンチン戦は21.2%と高い視聴率を記録しました。

また「F1グランプリ」「K1グランプリ」「サッカー欧州チャンピオンズリーグ」など注目度の高いソフトを放送、「ジャンクSPORTS」「すぼると!」などレギュラー番組も好調に推移し、スポーツの魅力を余すところなく伝えています。



北京五輪バレーボール世界最終予選

### Drama ドラマ

今年度前半も「フジテレビドラマ」は絶好調です。

“ドラマ冬の時代”と言われ、各局のドラマが苦戦する中、「フジテレビドラマ」は、そのクオリティーだけでなく視聴率も他局を圧倒して

います。連続ドラマでは、異例の5月スタートでも話題となった“月9”の「CHANGE」が、平均視聴率21.4%、最終回には27.4%を記録し、「フジテレビドラマ」の看板である“月9”の強さを改めて印象付けました。木曜22時“木10”でも「ラスト・フレンズ」「コード・ブルー」とヒットドラマを連発、視聴者の強い支持を獲得しています。また、10月には昨年の大ヒットドラマ「ガリレオ」の映画版「容疑者Xの献身」が公開、そして映画公開初日に、その「ガリレオ」の新作スペシャルドラマを放送するなど、「フジテレビドラマ」は新たな可能性を示しながら今も進化し続けています。

### Variety バラエティ

さらに夏恒例の「FNS27時間テレビ」は、大御所・明石家さんまさんが今年の司会で盛り上がり日本全国的话题をさらいました。

## Broadcasting 放送事業&放送関連事業

CHANGE

CHANGE

絶好調の「ネプリーグ」「はねるのトびら」「クイズ!ヘキサゴンII」を筆頭に、「HEY!HEY!HEY!」「SMAP×SMAP」「ザ・ベストハウス123」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「めちゃイケてるッ!」「メントレG」といったプライムタイムに今期は新星「爆笑レッドカーペット」が参入、他局を圧倒するバラエティラインナップを形成しています。お昼は「笑っていいとも!」「ライオンのごきげんよう」が皆様に愛され続けており、

FNS27時間テレビ



# HOLDINGS OUTLINE

## Life Information 情報

日々のニュースを多角的視点から検証し、分かりやすく伝える朝の情報番組「とくダネ!」は引き続き好調でお茶の間の強い支持を獲得、月間平均視聴率は92ヶ月連続1



とくダネ!

位をキープする快挙を成し遂げました。「日本の朝の顔」を代表する番組として若者のトレンドを牽引し、学校や職場で話題的となっている「めざましテレビ」も好視聴率をキープ。今年には15周年を迎え、日本全国を自転車で行き、花を植える「めざましフラワーロード」を行くなど、環境問題でも積極的なメッセージを送りました。

特別番組としては「最強ドクターが救った命と家族の絆SP」の第4弾を放送、多くの番組・企画で社会性あるテーマを追求しています。また、今夏は「お台場冒険王ファイナル」を情報制作局が中心になって牽引、大成功に導きました。

## News 報道

「FNNスーパーニュース」は夕方のニュース激戦区で7年連続視聴率トップに向けて今年度上期も首位の座を堅持しております。米大統領単独会見などで安藤、木村両キャスターも高い信頼を得ています。一方、主要ニュースで「エコプロジェクト」企画を展開、地球環境問題で実態報告、提言を行いました。好評のドキュメントドラマでは特攻隊を女学生の眼で描いた「なでしこ隊」が高視聴率を獲得し、視聴者から高い評価を得ました。

取材部門では、ミャンマーの日本人記者銃撃映像が平成20年度の新聞協会賞を受賞。このほか金正男氏単独直撃など世界的にも反響を呼ぶ質の高い取材を続けています。



FNNスーパーニュース

## CS CS放送

CS放送フジテレビ721+739は、日本最大級の野外ロックフェスティバル「FUJI ROCK FESTIVAL'08」を12時間放送、X

JAPANの「攻撃再開」までのドキュメントを放送。オリジナル番組の「ばら・す」は、「第25回ATP賞グランプリ2008」のバラエティ部門で優秀賞を受賞。また、「F1グランプリ2008」全戦生中継、東京ヤクルトスワローズ主催試合を生中継と充実した内容でお届けしました。そして、4月1日に第3チャンネル「フジテレビCSHD」を開局、魅力的なコンテンツをハイビジョンで放送しています。



FUJI ROCK FESTIVAL'08

## フジネットワーク 28局

UHB 北海道文化放送(株)	NST (株)新潟総合テレビ	KTV 関西テレビ放送(株)	STS (株)サガテレビ
MIT (株)岩手めんこいテレビ(株)仙台放送	NBS (株)長野放送	TSK 山陰中央テレビジョン放送(株)	KTN (株)テレビ長崎
AKT 秋田テレビ(株)	SUT (株)テレビ静岡	OHK 岡山放送(株)	TKU (株)テレビ熊本
SAY (株)さくらんぼテレビジョン	BBT 富山テレビ放送(株)	TSS (株)テレビ新広島	TOS (株)テレビ大分
FTV 福島テレビ(株)	ITC 石川テレビ放送(株)	EBC (株)テレビ愛媛	UMK (株)テレビ宮崎
(株)フジテレビジョン	FTB 福井テレビジョン放送(株)	KSS 高知さんさんテレビ(株)	KTS 鹿児島テレビ放送(株)
	THK 東海テレビ放送(株)	TNC (株)テレビ西日本	OTV 沖縄テレビ放送(株)

## Radio

## ラジオ

平成20年度上期も(株)ニッポン放送は、ナイター中継「ショウアップナイター」をはじめ各番組がリスナーの支持を得ました。また、9月8日から、夜の時間帯の改編を行い、月曜日から金曜日までの午後10時から午前0時までの2時間番組「銀河に吠えろ！宇宙GメンTAKUYA」がスタートしました。そして、6月28日には、20周年を迎えたお昼の人気番組「高田文夫のラジオビバリー昼ズ」のイベントをよみうりホールで開催しました。さらに、出版分野では、「小倉淳の早起きGoodDay!」から生まれた「あした元気になるために～人生の時間銀行」が発売され、好評を博しました。



「高田文夫のラジオビバリー昼ズリスナー大感謝祭り」

## Movie

## 映画

平成20年度上期のフジテレビ映画は「少林少女」（興収15億円）、「ザ・マジックアワー」（興収40億円）、「ゲゲゲの鬼太郎～千年呪い歌」（興収14億円）と着実にヒットを重ねました。中でも三谷幸喜監督の最新作「ザ・マジックアワー」は、カンヌ映画祭のマーケット試写で各国バイヤーを爆笑の渦に巻き込むなど海外でも好評を博し、フジテレビ映画の評価を高めました。また、出資作品であるサラ・ジェシカ・パーカー主演「セックス・アンド・ザ・シティ」は、NYを舞台にストレートな恋愛表現とファッション性を絡めて女性に大人気を博し、興収15億円を超えるヒットとなりました。8月末には、モントリオール世界映画祭で「誰も守ってくれない」（2009年1月公開）が最優秀脚本賞を受賞、下期に向けて良い弾みになりました。



「ザ・マジックアワー」©2008 フジテレビ 東宝

## Event

## イベント

3月から6月まで日本科学未来館で開催された「エイリアン展」には開館以来最多の観客が訪れました。ゴールデンウィークに実施されたフジテレビ社屋イベント「お台場学園」はこれまでの動員数を更新、さらに夏の「お台場冒険王ファイナル」では、大規模なステージ上で、収録やライブ放送を行い番組との連動を徹底するなど、全社一丸となって取り組んだ結果、大成功のうちに終了しました。コンテンツのマルチユースに成功した舞台「大奥」は、全国ツアー公演を実施し、多くの方に楽しんでいただきました。また、全国で初めて開催された高校生フットサル大会には、多数のチームが参加、フットサルの振興と普及に貢献しました。



「お台場冒険王ファイナル」

## Rights Business

## ライツビジネス

映像ソフト事業はDVD市場が縮小する中、上期売上55億円を突破。シリーズ合計200万枚超の「人志松本のすべらない話」をはじめ、「医龍2」「SP」など人気番組DVDが牽引し、海外作品「朱蒙（チュモン）」のリリースや「のだめカンタービレinヨーロッパ」「アイドリング!!!」などオリジナル系コンテンツDVD化も奏功しました。

番組等関連商品では「クイズ！ヘキサゴンII」の羞恥心グッズ、「めっちゃイケてるッ！」グッズ、「ジャンクSPORTS」の浜田大明神グッズなどが大ヒット、「お台場冒険王ファイナル」で史上最高の売上を記録しました。「めざましテレビ」ではコンビニ流通とコラボ商品を開発、「ラスト・フレンズ」ではブランドを立ち上げて話題を提供しました。



羞恥心グッズ

## Direct Marketing 通信販売事業



「Do! スポーツ.jp」

(株)ディノスの上期の通販売上はインターネット事業、ファッション事業の好調に支えられて、順調に推移しました。インターネット事業は引き続き好調で、前年比109.8%を記録しました。また、スポーツマーケットの拡大に対応する「Do! スポーツ.jp」を立ち上げ、将来的な布石を打ちました。前期に100億円の大台に到達したファッション事業は絶好調で130%を超える伸びを見せています。ターゲット戦略に基づいた新カタログ「サイズリッシュ」「ダーマ・コレクション プリュス」が新たに稼働を始めています。

## Other その他事業

(株)サンケイリビング新聞社は女性向けフリーペーパーの発行を軸とした「総合女性マーケティング企業」です。今年6月に創刊37年を迎えた主婦向け「リビング新聞」は全国で59エリア879万部を発行する世界最大級のフリーペーパーネットワークです。また、OL向け職域配布の「シティリビング」、幼稚園児とその母親へ向けた「あんふぁん」などの定期発行のほか、「春の新品ヒットのたまご!グランプリ」といったコンテスト企画や、「銀座・有楽町フェスティバル」などのイベントも積極的に実施。今後も女性の豊かな生活のために活動いたします。



©SANKEI LIVING SHINBUN, Inc.  
「春の新品ヒットのたまご!グランプリ」

## Video & Music 映像音楽事業



羞恥心のデビュー・シングル「羞恥心」



Superflyのデビュー・アルバム「Superfly」

(株)ポニーキャニオンのオーディオ部門では、aikoのニューアルバムとフジテレビバラエティ番組「クイズ!ヘキサゴンII」からデビューした羞恥心、「はねるのトビら」からデビューした悲愴感が収益に大きく貢献。音楽配信では「羞恥心」の着うたフルが当社初のトリプルプラチナ認定となり収益に大きく貢献。ビジュアル部門では、韓流ドラマの「朱蒙(チュモン)」「ソドンヨ」、バラエティの「8時だよ!全員集合」40周年記念盤DVD-BOX、テレビドラマの「医龍2」「鹿男あをによし」、映画の「ミスト」「ガチ☆ボーイ」のDVDが収益に貢献しました。

(株)フジパシフィック音楽出版では、5月に発売された新人アーティスト:Superflyのデビュー・アルバム「Superfly」が、ヒット・チャートで初登場1位を獲得、プラチナ・アルバムとなる大ヒットを記録しました。

また、シングルでは、羞恥心のデビュー・シングル「羞恥心」(4月リリース)が、CDや配信でも大ヒットとなりました。

これらヒットのほか、邦楽著作権部門が着実な収入をあげ、上期の売上は好調に推移いたしました。

※今回の中間報告書では、第2四半期の時点でのセグメントに基づいてアウトラインをご報告しました。

# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 連結貸借対照表 (単位：百万円)

	当第2四半期 会計期間末 平成20年9月30日現在	前連結 会計年度末 平成20年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>1</b> 流動資産	257,038	253,577
<b>2</b> 固定資産	416,926	423,423
有形固定資産	171,129	181,146
無形固定資産	49,856	47,929
投資その他の資産	195,940	194,347
資産合計	673,965	677,000
<b>負債の部</b>		
<b>3</b> 流動負債	110,275	115,425
<b>4</b> 固定負債	106,211	105,497
負債合計	216,486	220,922
<b>純資産の部</b>		
株主資本	452,496	450,682
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664
利益剰余金	148,136	146,322
自己株式	△15,505	△15,505
評価・換算差額等	143	649
その他有価証券評価差額金	1,212	1,416
土地再評価差額金	345	△463
為替換算調整勘定	△1,414	△302
少数株主持分	4,838	4,745
純資産合計	457,478	456,077
負債・純資産合計	673,965	677,000



### 1 流動資産

受取手形及び売掛金、有価証券などが減少した一方で、現金及び預金、リース投資資産などが増加し前期末比34億61百万円の増加となりました。

### 2 固定資産

前期末に有形固定資産に含めて計上していたリース資産を、会計基準の変更により、リース投資資産として流動資産に計上したことなどにより、前期末比64億96百万円の減少となりました。

### 3 流動負債

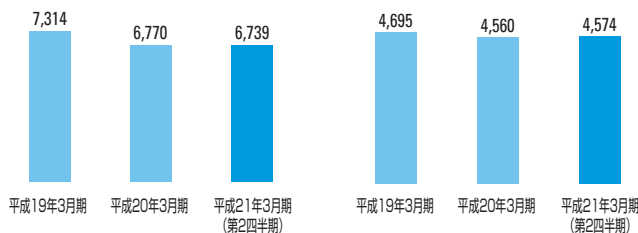
支払手形及び買掛金などが減少し前期末比51億49百万円の減少となりました。

### 4 固定負債

退職給付引当金などが増加し、前期末比7億13百万円の増加となりました。

総資産 (億円)

純資産 (億円)



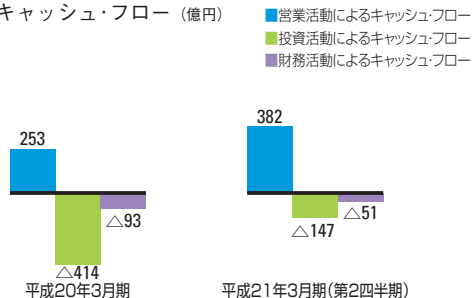
## 連結損益計算書 (単位：百万円)

	当第2四半期	前連結会計年度
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	281,975	575,484
売上原価	189,430	390,778
売上総利益	92,544	184,706
販売費及び一般管理費	79,902	160,333
営業利益	12,641	24,372
営業外収益	4,689	6,923
営業外費用	1,918	4,239
経常利益	15,412	27,056
特別利益	209	8,901
特別損失	1,824	6,431
税金等調整前四半期(当期)純利益	13,797	29,526
法人税、住民税及び事業税	7,505	11,591
法人税等調整額	511	1,860
少数株主利益	123	303
四半期(当期)純利益	5,657	15,770

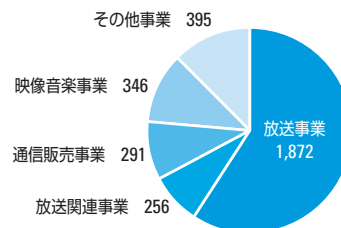
## 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

	当第2四半期	前連結会計年度
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	38,203	25,383
投資活動による キャッシュ・フロー	△14,793	△41,488
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,138	△9,367
現金及び 現金同等物に係る換算差額	△1,749	△116
現金及び現金同等物の増減額	16,522	△25,588
現金及び現金同等物の期首残高	80,171	104,324
合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	1,435
新規連結に伴う現金及び現金 同等物の増加額	913	—
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	97,608	80,171

キャッシュ・フロー (億円)



セグメント別売上高 (億円)



# 個別財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

## 貸借対照表 (単位：百万円)

	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
	平成20年9月30日現在	平成20年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	143,232	144,564
固定資産	418,849	418,475
有形固定資産	154,604	157,269
無形固定資産	33,028	33,252
投資その他の資産	231,216	227,953
<b>資産合計</b>	<b>562,081</b>	<b>563,040</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	63,223	65,643
固定負債	78,879	78,131
<b>負債合計</b>	<b>142,102</b>	<b>143,774</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	418,733	417,749
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664
利益剰余金	114,373	113,389
自己株式	△15,505	△15,505
評価・換算差額等	1,245	1,516
<b>純資産合計</b>	<b>419,979</b>	<b>419,265</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>562,081</b>	<b>563,040</b>

## 損益計算書 (単位：百万円)

	当第2四半期	前事業年度
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	176,157	382,971
売上原価	119,872	263,405
<b>売上総利益</b>	<b>56,285</b>	<b>119,566</b>
販売費及び一般管理費	45,956	97,146
<b>営業利益</b>	<b>10,328</b>	<b>22,420</b>
営業外収益	5,831	8,927
営業外費用	1,477	3,487
<b>経常利益</b>	<b>14,682</b>	<b>27,861</b>
特別利益	135	628
特別損失	3,740	5,060
<b>税引前四半期(当期)純利益</b>	<b>11,077</b>	<b>23,428</b>
法人税、住民税及び事業税	5,382	7,391
法人税等調整額	565	915
<b>四半期(当期)純利益</b>	<b>5,129</b>	<b>15,121</b>



# 会社概況

## Corporate Data

### ● 会社概要 (平成20年10月1日現在)

会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス

FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

事業内容 認定放送持株会社

設立 昭和32 (1957)年11月18日

株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、平成20年10月1日付  
 けで、認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」  
 から商号変更し、「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会  
 社フジテレビジョン」が承継しました。

決算期 3月31日

資本金 1,462億35万円

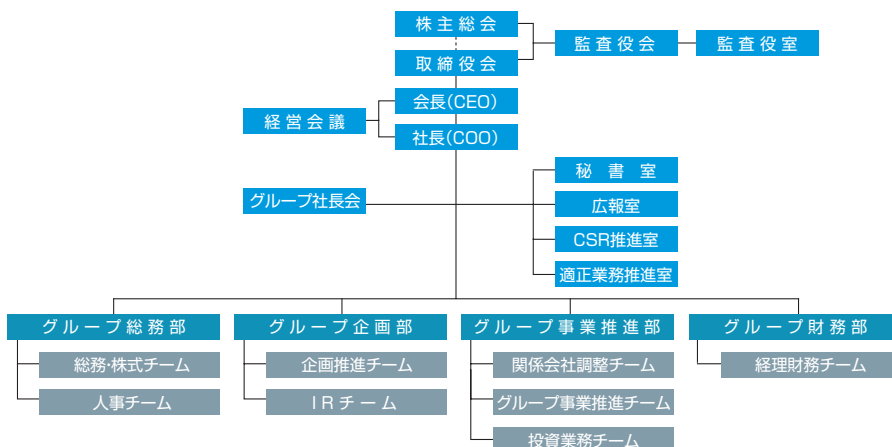
連結従業員数 5,125名 (平成20年9月30日現在)

本社 〒137-8088東京都港区台場二丁目4番8号

### ● 役員 (平成20年10月1日現在)

代表取締役会長	日枝 久
代表取締役社長	豊田 皓
専務取締役	太田 英昭
常務取締役	嘉納 修治
常務取締役	内堀 眞澄
常務取締役	飯島 一暢
取締役	瀬田 宏
取締役	遠藤 龍之介
取締役	横井 亮介
取締役	小櫃 真佐己
取締役	堀口 壽一
取締役	久保田 榮一
取締役	小林 豊
取締役	鈴木 克明
取締役	松岡 功
取締役	佐藤 重喜
取締役	石黒 大山
取締役	出馬 迪男
取締役	別府 隆文
取締役	清原 武彦
常勤監査役	尾上 規喜
常勤監査役	近藤 俊一郎
常勤監査役	伊藤 八朗
監査役	茂木 友三郎
監査役	南 直哉

### ● 組織図 (平成20年10月1日現在)



# 株 式 情 報

(平成20年9月30日現在)

## Investor Information

### ● 株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	74,389名

(注)株式数および株主数は自己株式を含んでおります。

### ● 大株主

株 主 名	持 株 数 (株)	比 率 (%)
東宝株式会社	183,221	7.75
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	92,010	3.89
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	76,965	3.26
シービーニューヨーク オービス ファンズ	75,186	3.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	67,470	2.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口4G)	59,850	2.53
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	51,658	2.18

(注)上記のほか当社所有の自己株式61,202株、証券保管振替機構名義の株式195,814株があります。

## お知らせ

フジ・メディア・ホールディングスのHP上に「IR情報」が掲載されています。最新のIRニュースや決算情報などがご覧いただけます。

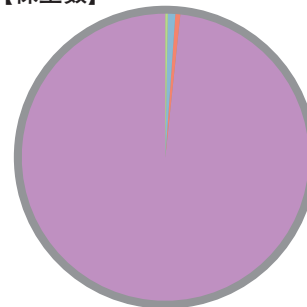
フジ・メディア・ホールディングスHP  
→「株主・投資家情報」

<http://www.fujimediahd.co.jp/index.html>



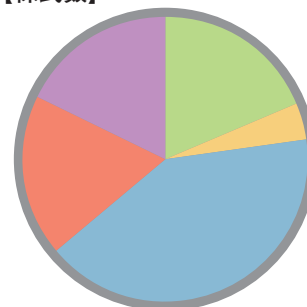
### ● 所有者別株式分布状況

【株主数】



金融機関	144名 (0.19%)
証券会社	43名 (0.05%)
国内法人	571名 (0.77%)
外国法人等	248名 (0.33%)
個人その他	73,383名 (98.65%)

【株式数】



金融機関	444,325株 (18.79%)
証券会社	99,776株 (4.22%)
国内法人	966,712株 (40.89%)
外国法人等	434,661株 (18.38%)
個人その他	418,824株 (17.71%)

(注)「国内法人」には証券保管振替機構(195,814株)が、「個人その他」には自己株式(61,202株)がそれぞれ含まれております。

# 株 主 メ モ



事業年度  
剰余金の配当基準日  
定時株主総会  
外国人等の株主名簿への  
記載記録の制限等

毎年4月1日～翌年3月31日  
3月31日（中間配当を行う場合は9月30日）  
毎年6月下旬

当社は、放送法で定める外国人等（①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体）の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。なお、当社は、外国人等の有する議決権数の議決権総数に占める割合が15%以上となった場合には、放送法および放送法施行規則の規定により、6か月ごとに公告を行います。

株式の名義書換  
株主名簿管理人  
同事務取扱場所  
公告掲載紙  
お知らせ

東京都中央区八重洲1丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
東京都中央区八重洲1丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
産業経済新聞

当社は、平成20年10月1日を効力発生日とする会社分割および商号変更を行い、従来の放送事業会社から認定放送持株会社に移行しましたが、平成21年1月に株券の電子化が予定されていることから、従来、商号変更に伴い一般的に行われている旧商号株券の一斉引換えは行いませんでした。したがって、当社旧商号株券（株式会社フジテレビジョン株券）をご所有の株主様におかれましては、株券の引換えに関するお手続きは特段必要ございません。

但し、お手元の株券がご本人名義になっていない場合には、平成21年1月の株券電子化により、株主としての権利を失う恐れがありますので、株主名簿管理人へお申し出いただき、早急に名義書換の手続をお済ませください（放送法で定める株主名簿への記載・記録の制限等のある外国人等を除きます。）。

なお、株券電子化に伴い、これまでの当社株式に関するお手続き等が変更になる場合がございます。詳しくは、次の「お問い合わせ先」にご確認ください。

## 平成20年12月30日まで

お問い合わせ先 〒135-8722 東京都江東区佐賀 1-17-7 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
電話 0120-288-324（フリーダイヤル）  
各種お手続き等 【株主名簿管理人取次所】みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

## 平成21年1月5日より（株券電子化後）

お問い合わせ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
電話 0120-288-324（フリーダイヤル）

各種お手続き等 【以下の区分にしたがってお願いします】  
**（証券会社等の取引口座に株式が記録され管理されている株主様）**  
住所変更等の各種届出等につきましては、原則として株主様が口座開設されている証券会社等を通じて行っていただきます。

**（みずほ信託銀行の特別口座に株式が記録され管理されている株主様）**  
住所変更等の各種届出及び証券会社口座への振替請求等につきましては、当社が特別口座を開設する口座管理機関であるみずほ信託銀行株式会社において受け付けます（同行全国各支店においても取次ぎを受け付けます）。

注1）株主様の未払配当金の取次ぎにつきましては、「みずほ信託銀行株式会社全国各支店」又は「みずほインベスターズ証券株式会社本店及び全国各支店」においても受け付けます。

注2）その他、詳細につきましては、「お問い合わせ先」にてご確認ください。



## Cover | 表紙について

### 「クイズ！ヘキサゴンⅡ」

毎週水曜日 19:00~19:57 フジテレビ系列全国ネット放送中（一部地域除く）

18人の芸能人・著名人が50問のペーパーテストを受け、知識レベルが均等な3チームに別れて、数々のクイズバトルで知識の限界に挑みます。毎回、想像を絶する大爆笑の展開から目が離せません。家族そろって楽しめるクイズバラエティです！

放送開始 2005年10月19日  
番組平均視聴率 16.4%  
番組最高視聴率 23.5% (2008年9月3日)

また、「クイズ！ヘキサゴンⅡ」は、当社グループならではの様々なコンテツ群も生み出し、それぞれ大ヒットしています。

- 楽曲：羞恥心「羞恥心」（ポニーキャニオン）シングルCD55万枚、着うた43万件、着うたフル63万件  
羞恥心「泣かないで」（ポニーキャニオン）シングルCD45万枚  
ヘキサゴンオールスターズ「WE LOVE♡ヘキサゴン」（ポニーキャニオン）アルバム3タイプ合計50万枚
- 書籍（扶桑社刊）：  
「ヘキサゴンドリル」 2007年12月30日発売 16刷 49万5千部  
「ヘキサゴンドリルⅡ」 2008年4月30日発売 6刷 24万5千部  
「ヘキサゴンドリルⅢ」 2008年10月8日発売 1刷 10万部
- 番組オリジナル携帯サイト会員数 約8万3千人

(2008年10月29日現在)

